

平成25年度

”萌える天北オロロンルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成24年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 萌える天北オロロンルート 代表 西 大志	報告年月日: 2014/3/31
---------------------	---------------------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	1	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成25年12月~1月(応募期間)	10人(主催者側)13人・応募作品数34点(一般)	A - 2	景観形成についての総括 ・エゾカンゾウの植栽については、人員確保等が引き続き課題となっており、種子の採取について出来る範囲で実施した。今後の展開方法は、ルートに検討を行う必要がある。 ・フォトコンテストとして、ルートが協力する形で「送り火フォトコンテスト」を開催し、送り火を新たな留萌の景観資源としてPRすることが出来た。
			2	送り火フォトコンテストの開催	留萌の送り火を継承する会	平成25年8月16日 募集開始: 8/20~	10人(主催者側)8人(一般)	A - 3	
			3	景観診断プロジェクト	-	-	-	-	
			4	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-	
			5	風景街道テーマ別意見交換会 (風景街道の意見交換会に参加)	日本風景街道	平成25年11月19日	30人(参加者)	-	
		花とみどりの景観づくり	6	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成24年6月頃	2人(主催者側) 1人(一般)	-	
			7	萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成25年6月~10月	2人(主催者側)	-	
			4	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-	
		愛着と誇りの醸成	3	景観診断プロジェクト	-	-	-	-	
		食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場製品の魅力づけ 新メニューの企画	8	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会 (遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成25年6月22日	
9	全道フォーラムにて地域特産物の販売実施				留萌管内商工会青年部連合会	平成25年10月13日	6人(主催者側)	-	
地域ブランドの構築	10★			情報発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報発信システム実行委員会	通年	10人(主催者側)/配布枚数4千枚程度	A - 4	
	4			菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-	
環境保全	地域に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり	11	フォーラムの開催	-	-	-	-	環境保全についての総括 ・環境保全に関するプロジェクトは、大きな発展は見られなかったが、萌え天の森プロジェクトでは、植栽した樹木の管理などの活動を実施した。 ・環境保全の取り組みは、人材確保や費用の捻出等が難しい場合が多く、継続性の面で課題がある。
			7	萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成25年6月~10月	2人(主催者側)	-	
		ゴミ対策の取り組み	-	-	-	-	-		
		身近な生態系の保全・復元	6	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成24年6月頃	2人(主催者側) 1人(一般)	-	
			7	萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成25年6月~10月	2人(主催者側)	-	
レクリエーション	暮らしに根差したもてなしによる温かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート	3	景観診断プロジェクト	-	-	-	-	レクリエーションについての総括 ・フィルムコミッションから学ぶ新たな観光資源開発としてフォトコンテストを開催したり、身の丈に合ったかたちで、萌え天の森やエゾカンゾウの植栽などを行っているが、大きな進展は少ない状況であった。新たなプロジェクトの検討も含め次年度以降のレクリエーションの展開を検討する必要がある。
			11	フォーラムの開催	-	-	-	-	
			7	萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成25年6月~10月	2人(主催者側)	-	
			10★	情報発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報発信システム実行委員会	通年	10人(主催者側)/配布枚数4千枚程度	A - 4	
		身近なアウトドアの紹介 各種カルチャー活動による交流	-	-	-	-	-	-	
			1	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成25年12月~1月(応募期間)	10人(主催者側)13人・応募作品数34点(一般)	A - 2	
			2	送り火フォトコンテストの開催	留萌の送り火を継承する会	平成25年8月16日 募集開始: 8/20~	10人(主催者側)8人(一般)	A - 3	
			6	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成24年6月頃	2人(主催者側) 1人(一般)	-	
4	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-				

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 萌える天北オロロンルート 代表 西 大志	報告年月日: 2014/3/31
---------------------	---------------------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括
歴史・文化	先代の暮らしぶりとな な価値観を将来に伝え 楽しむ	歴史資源の保全と活用	12	熊嵐の舞台・三毛別の活用					歴史文化についての総括 ・熊道プロジェクトは、昨年度に引き続き、ヒグマの出没が多く見られたことから、活動を自粛した。 ・新たなプロジェクトとして、地域資源を絵柄とした萌か留たを作成・配布し、地域の資源や歴史などの活用・伝承になった。萌か留たのさらなる活用を今後は検討する。
			10★	情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	地域情報受発信システム実行委員会	通年	10人(主催者側)/配布枚数4千枚程度	A - 4	
			次世代への歴史伝承	—	—	—	—		
		独自の生活文化の発見	1	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成25年12月～1月(応募期間)	10人(主催者側)13人・応募作品数34点(一般)	A - 2	
2	送り火フォトコンテストの開催		留萌の送り火を継承する会	平成25年8月16日 募集開始: 8/20～	10人(主催者側)8人(一般)	A - 3			
全体	上記内容全体の方針に関わる活動		13	情報受発信プロジェクト① ～冊子: るもい食楽歩～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	年数回発行	50人(主催者側)		地域づくりについての総括 ・オロロン手書きマップは、管内のみならず、様々なイベント等で提供され、非常に高い評価を得ることができている。こうしてできた繋がりを活かし、萌か留たを新たに作成した。 ・交流人口を拡大し、ルート外、都市圏との地域間交流についても取り組みが必要とされる。
			14	情報受発信プロジェクト② ～オロロンマップの活用～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	通年	50人(主催者側)		
			15	情報受発信プロジェクト③ ～道の駅スタンプラリー～	萌える天北オロロンルート	平成25年6月29日～10月20日	50人(主催者側) 2,130人(一般)		
			16	情報受発信プロジェクト④ ～オロロドライブ情報～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌開発建設部	年数回発行	50人(主催者側)		

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：「イベント一覧」及び「食とアウトドアマップ」の作成

【概要】 道東道の開通を機に十勝へのアクセス性が高まった今、地域の魅力を発見、創造していくと同時に、これを発信していく機会、手段を持つことが重要である。平成22年度に作成した「十勝平野・山麓ルートマップ」が各地で高い評価を得ていることから、観光には「自治体区切りではなく広域での情報提供」が必要であると実感した。今年度はイベント、食、アウトドアなどルートの特性に特化したマップ等を作成し、更なる情報発信に努めた。今後も、この種の情報発信を継続的に行うことが重要と考える。

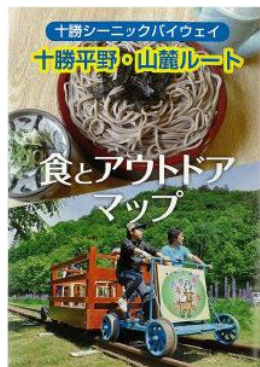
【日時】 ①イベント一覧 制作期間：平成25年5月～平成25年11月／発行：平成25年11月
②食とアウトドアマップ 制作期間：平成25年8月～平成26年2月／発行：平成26年2月

【検討機関】 観光振興分科会

【発行】 部数：①5,000部、②15,000部

配布箇所：ルート内の道の駅、商工会及び観光協会等

【イベント一覧】
サイズ：A3



【食とアウトドアマップ】
サイズ：A4の1/4
(見開きA3)



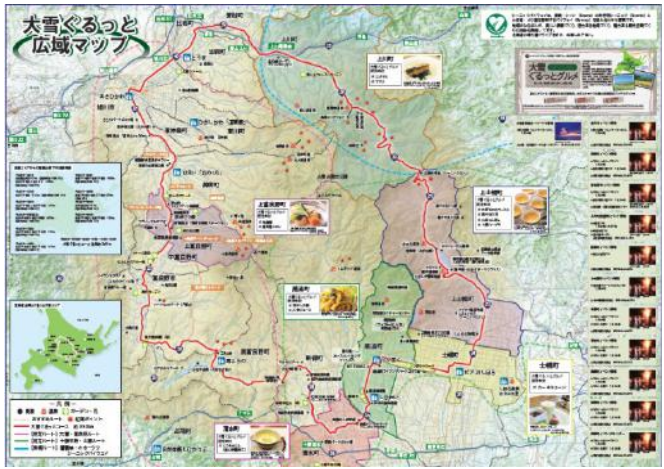
十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：大雪山ぐるっとシーニック観光推進事業

- 【概要】 北海道の屋根として認知度の高い「大雪山」を中心として広域の観光ブランドを創出し、周遊約350kmにおよぶ大雪山周遊観光を提案することで集客を図り大雪山周辺の地域活性化につなげていく。今年度は地域資源の視察等を行い地域の情報を発信する大雪山周辺地域広域マップを作成。また、地域のPRを行うため、ホテルオークラ札幌と連携し、ホテル内の3レストランにて地域食材を活用した特別メニューを提供するグルメフェア『大雪ぐるっとグルメ』を開催(平成25年7月)。
- 【日時】 平成25年4～平成26年3月
- 【場所】 大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルート及び上川町のエリア内
- 【主催】 大雪山ぐるっとシーニック観光推進事業検討会

【大雪ぐるっと広域マップ】



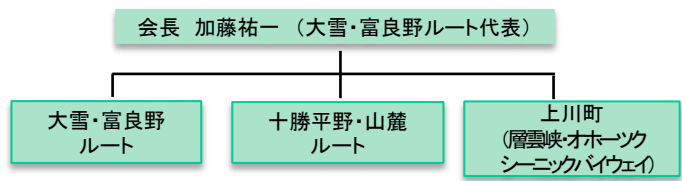
【ホテルオークラ札幌でのPRバナー・ポスター等の作成】



【グルメフェア使用食材】

市町村名	地域使用食材
上富良野町	・地養豚 ・富良野メロン
鹿追町	・切干し大根 ・人参ジュース
上士幌町	・かぼちゃペースト ・黒千石大豆 ・小豆こしあん ・十勝ハーブ牛
士幌町	・カーネルコーン
清水町	・とうもろこし
上川町	・ニジマス ・ヤマメ

【検討会体制】



4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2014/3/31
---------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成25年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ひらめ底建網オーナープロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)における広報活動 主催: ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会	平成25年6月22日	留萌開発建設部	ひらめ底建網オーナーin遠別において、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙の配布を実施し、来場者(約800人)への広報活動を実施した。 現状では来場者のみ対象となっており、他の地域イベントとの連携などルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上への取り組みが必要。	ルート内では様々な地域イベントが開催されており、これら地域イベントと連携した広報活動を模索するなど、ルートの認知度向上を検討する。	8
全体	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	ドライブ情報紙の発行 発行・編集: 地域情報受発信システム実行委員会、留萌開発建設部	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	ルート内で行われるイベント情報や景観ポイント等、ドライブに役立つ情報の提供を目的とする情報紙”オロロンドライブ情報”を8回発行するとともに、道の駅で配布した。また、ルートへのドライブ観光の誘導を目的に留萌開発建設部ホームページにも掲載した。 今後もルート内のドライブ観光の魅力度を向上するため情報紙の内容や広報手法の充実が必要。	地域のイベントや景観などの魅力を道路利用者にPRするため、情報誌の内容充実や配布施設の拡大を検討する。	16
		「萌える天北オロロンルート: 道の駅スタンプラリー」との連携 主催: 萌える天北オロロンルート 6/29~10/20	平成25年6月26日~12月7日	小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	スタンプラリーの開催に先立ち参加者増を目的として、萌える天北オロロンルート: 道の駅スタンプラリーのホームページと留萌開発建設部のホームページをリンクするなど連携した広報活動を行った。また、道の駅所在地の各自治体から特産品が当選者に贈られており、応募者数は前年並みの2,130人(道外643人、道内1,487人)で、3年の継続したルートの活動により地域イベントとして定着している。 今後もルート内のドライブ観光の魅力度向上に向けた広報手法の充実が必要。	ルートの活動を道路利用者にPRするため、広報活動の充実を検討する。	15
		萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクするなど連携した広報活動を行った。 今後もルートの認知度向上に向けた広報手法の充実が必要。	実施機関以外の行政連絡会議構成機関と連携した広報活動を模索するなど、ルートの認知度向上を検討する。	
		「るもい食楽歩」ホームページのリンク及び情報紙「るもい食楽歩」の配布 発行・編集: 留萌観光連盟	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	ルートの活動や地域情報の発信を目的として、「るもい食楽歩」のホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクするなど連携した広報活動を行うとともに、情報紙「るもい食楽歩」を留萌開発建設部及び各自治体の庁舎で配布した。 今後もルート内のドライブ観光の魅力度向上に向けて、広報手法の充実が必要。	ルート活動や地域情報などの魅力を道路利用者にPRするため、情報紙の配布施設の拡大を検討する。	13
		道の駅へのルートシールの掲示(★)	通年	小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、留萌管内6箇所の道の駅へシーニックバイウェイ北海道及び萌える天北オロロンルートの名称を記載したシールを掲示した。 今後もルートの認知度向上に向けた広報手法の充実が必要。	ルートを道路利用者へPRするため、未掲示箇所への掲示を実施する。また、新たな広報手法を模索するなど、ルートの認知度向上を検討する。	

※表中“★”は、H25新規に実施した活動

5. 平成24年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 萌える天北オロロンルート 代表 西 大志	報告年月: 2014/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

平成24年度活動報告への助言	平成25年度 状況報告	備考

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2014/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成24年度活動報告への助言	平成25年度 状況報告	備考
